

脱炭素先行地域に関する取組

2022年11月、エネルギー事業者や大学などと共同提案で応募し、都心部を中心に産学官連携による積雪寒冷地のモデルとなる取組を進めていくことが評価され脱炭素先行地域※に選定されました。

※2030年までに電力消費に伴い発生するCO₂の排出実質ゼロの実現を目指すモデル地域として環境省が2025年までに100か所程度選定予定

共同提案者

北海道ガス、北海道熱供給公社、北海道電力、北海道大学、ノーステック財団

札幌市のまちづくり

積雪寒冷地
モデルとして
世界に発信

新たな公共交通システムとして、都心にてAIを活用したデマンド交通の実証実験を行い、積雪寒冷地に対応した環境配慮型車両（水素車両など）の導入を検討

H2
再エネ由来
水素

①札幌都心民間施設群

③北大北キャンパス

④公共施設群

②水素モデル街区

①札幌都心民間施設群

- ・「札幌都心E！まち開発推進制度」(P6参照)による建物省エネ化や創エネ技術の導入等誘導
- ・コージェネレーションシステム等を活用したエネルギーネットワークの整備拡充や地域熱供給の熱源をカーボン・オフセット都市ガスへ切り替えることによる電力・熱の脱炭素化

②水素モデル街区

(P10参照)

③北大北キャンパス

- ・太陽光発電設備、蓄電池導入によるBCP機能を備えたカーボンフリーなエネルギーシステムの構築

④公共施設群

- ・市有施設のZEB化、民間活力の導入など様々な手法による太陽光発電設備の設置、再エネ100%電力の導入
- ・地下鉄からの乗換経路等への下水熱ロードヒーティング導入